

目 次

採点基準	1
1. Q 建築物の環境品質	2
Q1 室内環境	2
1. 音環境	2
1.1 騒音	2
1.2 遮音	5
1.3 吸音	11
2. 温熱環境	12
2.1 室温制御	12
2.2 湿度制御	20
2.3 空調方式	22
3. 光・視環境	24
3.1 昼光利用	24
3.2 グレア対策	29
3.3 照度	30
3.4 照明制御	32
4. 空気質環境	33
4.1 発生源対策	33
4.2 換気	35
4.3 運用管理	41
Q2 サービス性能	43
1. 機能性	43
1.1 機能性・使いやすさ	43
1.2 心理性・快適性	46
1.3 維持管理	49
2. 耐用性・信頼性	56
2.1 耐震・免震	56
2.2 部品・部材の耐用年数	58
2.3 適切な更新	62
2.4 信頼性	63
3. 対応性・更新性	68
3.1 空間のゆとり	68

3.2 荷重のゆとり.....	72
3.3 設備の更新性.....	73
Q3 室外環境（敷地内）.....	78
1. 生物環境の保全と創出.....	78
2. まちなみ・景観への配慮.....	85
3. 地域性・アメニティへの配慮.....	89
3.1 地域への配慮、快適性の向上.....	89
3.2 敷地内温熱環境の向上.....	92
2. LR 建築物の環境負荷低減性.....	97
LR1 エネルギー.....	97
1. 建物外皮の熱負荷抑制.....	99
2. 自然エネルギー利用.....	101
3. 設備システムの高効率化.....	103
4. 効率的運用.....	106
4.1 モニタリング.....	106
4.2 運用管理体制.....	108
LR2 資源・マテリアル.....	109
1. 水資源保護.....	109
1.1 節水.....	109
1.2 雨水利用・雑排水等の利用.....	110
2. 非再生性資源の使用量削減.....	112
2.1 材料使用量の削減.....	112
2.2 既存建築躯体等の継続使用.....	113
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用.....	114
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用.....	115
2.5 持続可能な森林から産出された木材.....	117
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み.....	120
3. 汚染物質含有材料の使用回避.....	121
3.1 有害物質を含まない材料の使用.....	121
3.2 フロン・ハロンの回避.....	123
LR3 敷地外環境.....	127
1. 地球温暖化への配慮.....	127
2. 地域環境への配慮.....	129
2.1 大気汚染防止.....	129
2.2 温熱環境悪化の改善.....	133

2.3 地域インフラへの負荷抑制.....	146
3. 周辺環境への配慮.....	153
3.1 騒音・振動・悪臭の防止.....	153
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制.....	160
3.3 光害の抑制.....	166
重点項目	171
参考文献	175
補助資料	177
ライフサイクル CO₂ について	191

採点基準

病院、ホテル、集合住宅については、建物全体として評価する項目（Q3、LR1、LR2、LR3）と、建物の〈共用部分〉と〈住居・宿泊部〉を分けて評価する項目（Q1、Q2）があるため注意する。すなわちこれら3用途については、必ず〈建物全体・共用部分〉評価及び、〈住居・宿泊部〉評価を両方実施すること。

採点基準の表中に「（該当するレベルなし）」と記載されている欄と、空白の欄があるが、「（該当するレベルなし）」となっている場合は、該当するレベルについては採点しないことを意味し、空白の場合には、その中間レベルを任意に採点可能なことを表している。

また、各採点項目中に表示されている以下のマークは評価対象とする建物用途名を表すものであり、適用のマークが表示されている場合には、その建物用途において、当該項目の評価が必要であることを表している。

● 凡例

建物用途名	適 用	適用外
事 務 所	事	事
学 校	学	学
物 販 店	物	物
飲 食 店	飲	飲
集 会 所	会	会
病 院	病	病
ホ テ ル	ホ	ホ
集合住宅	住	住
工 場	工	工